

esplanade



FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館

esplanade [エスplanade]  
APRIL 2024 | NO.215

# esplanade

[エスプラナード]  
APRIL 2024 | NO.215

contents

- 03 所蔵品紹介
- 04 なぜ私たちはKYNEに惹かれるのか?
- 06 プレゼンバトル 古美術編 レポ—ト!
- 08 福岡市美術館 ぶらり、さんぽ。
- 10 美術館スケジュール (4~6月)



右隻



左隻

表紙の作品

## 所蔵品紹介

## 源氏物語 図屏風

本作を手がけたのは、やまと絵の伝統を継承し江戸時代に活躍した絵師・土佐光起です。それぞれ、『源氏物語』第五帖「若紫」(右隻)と第一三帖「明石」(左隻)の場面を描いていますが、特に有名なのは「若紫」の方でしょう。松や桜が繁り、瀧が流れ落ちる山中で、赤い装束姿の光源氏が小柴垣の隙間から家の様子をうかがっています。軒下には女房と女兒が、さらにその奥には籠が外れた状態の伏籠ふせごが置かれています。

これらの描写から想像されるのは、光源氏と、後に彼の妻となる若き日の紫の上(若紫)の出会いの場面を象徴するあのセリフ「雀の子を犬君が逃がしつる。伏籠のうちに籠めたりつるものを。(雀の子を犬君が逃がしてしまったの。籠の中に入れておいたのに。)」ではないでしょうか。軒下で両手を広げる女兒が若紫、部屋の中で後ろ向きに座り込んでいるのが犬君なのでしょう。となると、雀がどこにいるのかが気になる所です。実は、若紫の視線の先、松や桜が繁るあたりに小さくその姿が描かれています(表紙に拡大図を掲載。右上の松の辺りをご覧ください)。小さすぎて分からない、という方もご心配なく。本作は「源氏物語の世界」展(古美術企画展示室にて6月18日より開催)で展示予定です。かわいらしい雀の姿を実物では是非ご確認ください。

学芸員(古美術係)宮田大樹

土佐光起 TOSA Mitsuoki (1617-1691)  
江戸時代 17世紀  
紙本着色  
縦140.8×横345.2(各)  
森山コレクション

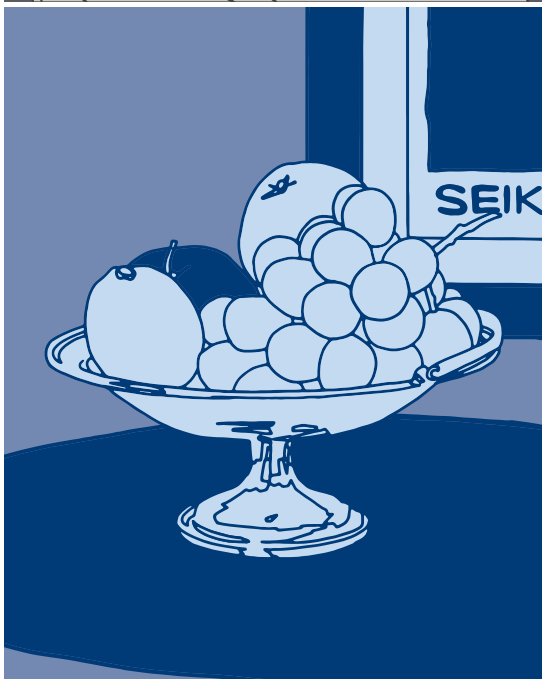


ソー・ソウエン《お臍と呼吸》2022

## 「第2回福岡アートアワード」の受賞作家・作品が決定しました!

福岡市内で活動をおこない、今後さらなる飛躍が期待できるアーティストを対象に、作品の買い上げをもって贈賞する「福岡アートアワード」。その2回目の受賞作家と作品が決定しました。80名の応募の中から、市長賞にソー・ソウエン氏の《お臍と呼吸》、優秀賞にイ・ヒョ

ンジョン氏の《キムチ 2022-1》、山本聖子氏の《白色の嘘、滲む赤》が選ばれました。3点の受賞作品は、現在、近現代美術室A、Bにて開催中の「第2回福岡アートアワード受賞作品展」(~6月2日まで)で展示中です。ぜひご来場ください。



※使用画像はすべてKYNE《Untitled》2024年

### 展覧会情報

## ADAPTATION - KYNE

◇会期：令和6年4月20日(土)～6月30日(日)

◇会場：2階 特別展示室

◇観覧料：一般1,700円(1,500円)、

高大生1,000円(800円)、中学生以下無料

※( )内は前売り、20名以上の団体、満65歳以上の割引料金。

## KYNEの 絵のみどころや魅力を 4つの観点で紹介。

みどころ

### 1 心地よい空間で見る新作壁画

公園のような広場風の空間に、4×12mの描きおろしの新作壁画が登場！のんびり座って休憩しながら、鑑賞することができます。

みどころ

### 2 期間限定のショップが出現！

本展オリジナルの付箋やクリアファイル、マスキングテープなどのグッズのほか、売り切れ必至のオリジナル「博多通りもん」もあります！

みどころ

### 3 KYNEの絵ができるまで

絵画作品ができあがる前に何パターンも作られるドローイングなど、アーカイブ資料も多数展示します。

みどころ

### 4 図録でKYNE展を自宅でも

新作壁画と展示風景を含めた、本展オリジナル図録(B5版)が5月初旬に刊行予定。



## KYNE

1988年生まれ。大学時代に日本画を学び、2006年頃から活動を始めた、福岡拠点のアーティストです。主な展覧会に、2021年「KYNE KAIKAI KIKI」Kaikai Kiki Gallery(東京)、2022年「KYNE SHANGHAI 2022」宝龍美術館(上海)など。

# KYNE ADAPTATION 2024.4.20—6.30 FUKUOKA ART MUSEUM



## なぜ私たちは KYNEに惹かれるのか？

スタイリッシュな女性たちが印象的なKYNEの作品群。その人気の秘密に迫る特別展を、当館で開催します。

福岡を拠点に活動するKYNE(キネ)は、1980年代の漫画やアイドルのレコードのジャケットからインスピレーションを受けた、クールな表情の女性を描くアーティストです。少年時代から興味があったストリートの文化と、大学で学んだ日本画のエッセンスを合わせた、無駄をはぎ落したシンプルな描法で描かれた女性たちは、観る者へ強い印象を残します。「見不愛想で、意志を感じさせる太い

眉と目をもつ彼女たちは「KYNEgirl」と呼ばれ、その作品はオークションやアートフェアのみならず、アパレルブランドとのコラボレーション、CDジャケットのイラスト、広告など、国内外で大きな注目を集め、今や現代を象徴するアイコン的な存在となつています。福岡市美術館で2020年から2022年まで公開した壁画《Untitled》も大きな話題となり、今回特別展

への開催につながりました。本展は、KYNEの国内初となる大規模個展として、新作壁画を含む、絵画、版画、ライトボックス、立体、ドローイングなど、二挙公開し、その魅力を探ります。タイトルの「ADAPTATION(アダプテーション)」とは、生物が環境に適応するために変化することをさす言葉です。アーティストKYNEの変化の軌跡をご覧ください。

近現代美術係長  
山木裕子

# プレゼンバトル 古美術編 レポート!

昨年11月23日、当館ミュージアムホールにて、美術史家の山下裕二さんと中山喜一郎総館長によるプレゼンバトルが行われました。古美術コレクション約4500点の中から、お題に沿った作品をセレクト。その理由を熱く語り、偏愛ぶりを披露しました。



今回のバトルテーマは「超絶技巧」「ユーモア」「威風堂々」「カワイイ」「これ欲しい!」の5つ。その中から今回はテーマ「カワイイ」でプレゼンバトルする様子を紹介いたします。

## カワイイってなんだろう

中山 当館では《コブウシ土偶》という所蔵品があつて、職員はコブウシくんと呼んでいます(画像1)。ミュージアムグッズにもなっていて、カワイイと評判なのです。紀元前2000年のインダス文明頃とされるもので、今のパキスタンの遺跡から出土したものです。が、私の今日の推しはこつち(画像2)。

山下 さつぎのコブウシくんとは違って、ずいぶん痩せっぽちですね。

中山 あのあたりでは、ヒンドウ教もバフモン教も牛を聖なるものと考えます。それよりずっと古い時代のもので、コブウシも神聖視されていたのかもしれない。しかもこのコブウシ、角が折れちゃっていて、「かわいそうカワイイ」でしょ。ちよつとひねったかわいさを考えて、これを選びました。続いて

うひとつ(画像3)。

山下 やや!これは要ですね。

中山 こちらはキモカワ。これも古くて、同じ地域の新石器時代のもので、女性形の土偶がけっこう出土するのです。私はこの二人に心の中で名前をつけていまして、ケイちゃんといちゃん。なんだか宇宙人みたいでしょう。「UFO」って。(観客ドツと笑う)

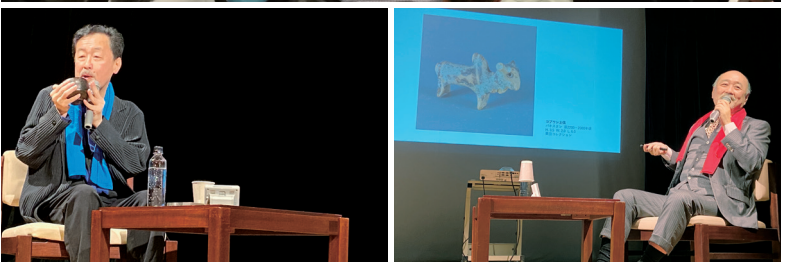
山下 ピンク・レディーというわけですね。

中山 土を焼いたものですが、ものすごく硬い。はたして野焼きでこんなに焼き締められるまで焼成温度が上がるのかどうか。不思議な土偶です。

様式的にはこの時期にだけ、ふいに現れるもので、本当に宇宙人だったのかも。

山下 考えてみれば、日本の縄文の土偶も女性像ですよ。古代における女性観が垣間見えますね。「原始、女性は太陽であった」ということでしょうか。

中山 我々男性は、女性の周りを巡



画像1



画像2



画像3



画像4



画像5



画像6

画像1 《コブウシ土偶》パキスタン 前2000年頃 粘土焼成 森田コレクション / 画像2 《コブウシ土偶》パキスタン 前2200~2000年頃 粘土焼成 栗田コレクション / 画像3 《女性土偶》パキスタン 前3000~前2500年頃 粘土焼成 森田コレクション / 画像4 仙居義典《犬図》江戸時代19世紀 紙本墨画 石村コレクション / 画像5 重要文化財《壺形土器》弥生時代 紀元前1~後1世紀 松永コレクション / 画像6 長次郎《黒染茶碗 銘「次郎坊」》(画像6) 16世紀 陶器 松永コレクション

る惑星ですよ。あ、時間になりました。山下さんのターンです。

山下 カワイイと来たら、そりゃこれを選ばないわけにいかないでしょう!

仙居さんの《犬図》(画像4)です。昨日会場でこれを拝見したんですよ。するとキャプションで、「はたしてこの絵をどこから描き始めたのか」と問われていて、なるほどと思ったのです。これ、尻尾の墨が濃いです。そこから一筆で書いていって、だんだん薄れて細くなりますが、とにかくうまい! 仙居さんはうまさがありながら、あえてそれを崩している。そういう美質がよく現れた作品だと思います。それでやんちゃやんちゃなんて鳴いているんだから、かわいいに決まっています。

中山 60歳代後半まで、仙居って絵がめちゃくちゃうまいんです。うまさ先走っているような作品もある。ところがそこから先、悟つたのだと思うのです。「こんなうまい絵を書いてちゃダメだ」って。

山下 我々くらの歳から、脱力して、老人力がついたのかもしれないですね。その気持ち、わかりますよ。そんなわけで、このお題を与えられた時に真っ先に思い浮かんだのは、この絵でした。

ほかに「威風堂々」パートでは、山下さんは《壺形土器》(画像5)をプレゼン。縄文土器からは国宝が数点選ばれているにも関わらず弥生土

器からは1点も選ばれてないことに触れ、「この堂々たる構え、欠損のなさ、出土地がハッキリしている点から言っても、未来の国宝に選ばれるならこれですよ」と力強く話し、中山

総館長と合意する一幕も。さらに「これ欲しい!」パートでは、実際に樂家初代長次郎の茶碗でお茶を飲んだことがあるという山下さんは、長次郎《黒染茶碗 銘「次郎坊」》(画像6)をセレクト。当館で精巧に作つたレプリカを手に取りながら、「この茶碗は、ろくろじゃなくて、つくねで作られています。この長次郎の手の跡に、自分の手を添えるとピタッとくっくです」と感嘆しながら紹介しました。このような具合で、自ら選んだ作品を紹介しました。

山下さんの「美術を鑑賞するのに、構える必要はありません。自分の好きなように見ればよいのです。例えば『自分がもしつもらえたら?』なんて観点で見ると、目の前の作品がガラリと違って見えるかもしれません」という言葉に来場者も納得の表情。皆様も当館でお気に入りの作品を見つけてみてはいかがでしょうか。

## 美術史家 山下裕二 VS 総館長 中山喜一郎



4



既成概念を  
ぴよんとひとつ飛び

バリー・フラナガン

《三日月と鐘の上を跳ぶ野うさぎ》1988

**編** NHK側の入り口には、こちらも印象的なブロンズ像があります。

**渡** バリー・フラナガンはイギリスの作家で、野うさぎをモチーフにした連作で知られています。私たちにあまり馴染みがありませんが、ヨーロッパでは野うさぎは親しみ強い動物で、かわいいというよりは力強いイメージがあるようです。この作品からもいきいきとした自由さやたくましさを感じられますよね。

**編** 屋外作品にはブロンズが使われていることが多いですね。

**渡** ブロンズとは銅に錫や亜鉛、鉛を混ぜた合金で、屋外で展示するのに向いているのです。私は毎年、博物館実習に来た学生さんと屋外作品のメンテナンスをするのですが、実際に作品に手で触れてわかることも多いんですよ。

これは、鐘の底の部分に水が貯まらないよう小さな穴が空いていたり、月と野うさぎの接合部分をあえて溶接せず、免震のような仕組みになっていたりと、屋外に展示して欲しいという作家の声が聞こえるような作品です。

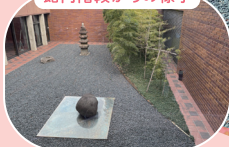
バリー・フラナガンの野うさぎ作品は、百道のふれあい橋兩岸でも見ることができます。こちらとはしごしてみるのも楽しいかもしれません。

3



まるで禅僧のような  
ストイックさ

館内階段からの様子



李禹煥(リ・ウーファン)

《関係項》2004(原作は1968)

©LEE Ufan

**渡** 一度館内に入ります。実は中庭にもおもしろい作品があるので、こちらを見てみましょう。「もの派」を代表する作家、李禹煥の作品です。石の下に大きな一枚のガラスがあり、その下の鉄板は4つに割れています。

**編** 本当だ!ガラスは割れていないのに、下の鉄板は割れている。不思議な感じですね。

**渡** 大きな岩がガラスの上に乗っている危うさ、矛盾や人工物と自然の組み合わせのバランスなど、緊張感がありながらも、視覚のトリック要素が魅力的な作品ですね。

個人的には、美術館中央の階段から見下ろす角度で鑑賞するのもオススメです。ガラスや鉄板の様子がよく見えます。

**編** 枯山水のような庭とも作品がマッチしていますね。

**渡** 奥に見える《四重石塔》と《都府楼礎石》も古美術の所蔵作品です。これら古い時代の作品と現代アートが同居しているのも、おもしろいですよね。ちなみに余談ですが、庭に植えている竹からは、毎年春になるとタケノコが出てくるんです!ビルのメンテナンス担当の方が抜いてくださるのですが、残念ながら筋っぼくておいしくはないそうです。

## 福岡市美術館 ぶらり、さんぽ。

当館には、屋外にも様々な作品があるのをご存知でしょうか?今号では渡抜由季学芸員と一緒に、その一部を鑑賞しました。みなさんも、ぜひおさんぽがてらお出かけください。

私がご案内します



案内人

学芸員(近現代美術係)  
渡抜由季

2



かわいくて  
毒々しくてパワフル

© YAYOI KUSAMA  
画像転載不可

草間彌生

《南瓜》1994

**編** さてエスプラナードにやってきました。福岡市美術館を象徴する作品の一つ、《南瓜》です。来館者からも人気で、よくインスタグラムにも写真が上がっています。

**渡** いままでこそ草間彌生の屋外展示は世界中で知られていますが、この南瓜が制作された1994年まで、屋外展示はほとんど作られていませんでした。もともと「ミュージアム・シティ・天神 '94」というアートプロジェクトの一環で天神の福岡銀行本店前に設置されたもので、その後当館に所蔵されました。

**編** この水玉には、毒々しくも心惹かれる何かがありますね…。

**渡** 作品の特徴である水玉は、一つひとつフリーハンドで描かれています。FRPとウレタン塗装でできていて、屋外展示のため、風雨や紫外線による劣化があるので、定期的に修復作業を行っています。

彼女の作品に見られる水玉や網目は強迫観念に起因するものだと言明されることがあります。このたっぷりとした南瓜の形とあいまって、ユーモラスで強い生き方を感じさせます。いまやすっかりこのエスプラナードの主になっています。



こちらから屋外作品のリストをダウンロードできます。鑑賞のおともどうぞ。

1



華やかさの裏に  
複雑な歴史あり

© Yinka Shonibare CBE, 2021. Courtesy of James Cohan Gallery, New York  
撮影:山中慎太郎(Qsyumi!)

インカ・ショニバレCBE

《ウィンド・スカルプチャー》2021

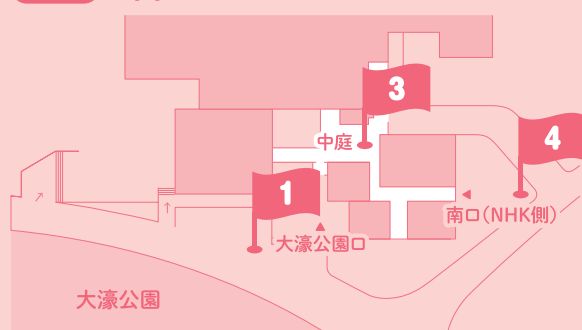
**編集部** アプローチでお出迎えしてくれる、美術館の顔のような作品です。

**渡抜** これは植民地時代の「アフリカンプリント」と呼ばれる布をモチーフにした作品です。アフリカンプリントと言いつつ、アフリカ発祥ではなく「植民地への輸出用にオランダやイギリスがインドネシア更紗を模倣し製造したものが、アフリカにもたらされ根付いた」という複雑な歴史があります。風に吹かれて舞上がる布のダイナミックな造形も美しいですね。布のようで彫刻という矛盾したあり方が、人々を惹きつけるのかもしれませんが、重力に逆らっているような形ですが、もちろん構造計算もしっかりされていて、本当の風に吹かれても安全なつくりになっています。

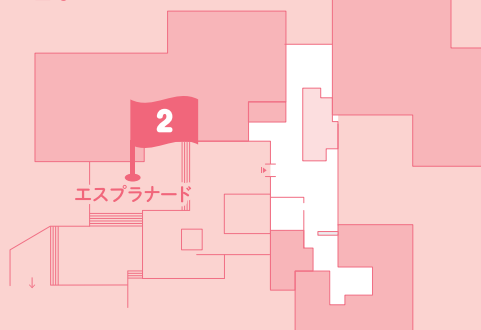
**編** カラフルでビビッドな表現に魅了されますが、その奥にあるものを知るとよりおもしろくなる作品ですね。

**渡** 優れたアート作品は、時代や立場が変わっても多様な見方ができる懐の深さがありますよね。ちなみに、当館2階近現代美術室でも《桜を放つ女性》というショニバレの作品が展示されています。こちらもお楽しみください!

MAP 1F



2F



4月

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日

5月

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16  
月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日

6月

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30  
日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日

4月20日(土)～6月30日(日)

・ADAPTATION - KYNE

～6月2日(日)

・コレクションハイライト (近現代美術室A)

3月28日(木)～6月2日(日)

・新収蔵品展 (近現代美術室B) ..... 2023年度に収蔵した近現代美術作品を紹介します。

3月28日(木)～6月2日(日)

・第2回福岡アートアワード受賞作品展 (近現代美術室A、B)

～6月2日(日)

・コレクションハイライト (近現代美術室C)

2月20日(火)～4月21日(日)

・アジアの染織 インド、インドネシア、カンボジア

3月19日(火)～6月2日(日)

・春の名品展 (松永記念館室) ..... 春の訪れから初夏へと移ろう時節に適した茶道具を、松永コレクションの名品より展示します。

通期・東光院のみほとけ (東光院仏教美術室)

4月23日(火)～6月16日(日)

・新収蔵品展 (古美術企画展示室)

6月4日(火)～8月18日(日)

・表具のキホン (松永記念館室)

6月13日(木)～

・コレクションハイライト (近現代美術室A)

6月13日(木)～9月1日(日)

・夏休み子ども美術館2024 道、その先には何がある? (近現代美術室A)

6月13日(木)～9月1日(日)

・野見山暁治のしごと (近現代美術室B)

6月13日(木)～

・コレクションハイライト (近現代美術室C)

6月18日(火)～8月4日(日)

・源氏物語の世界 (古美術企画展示室)

福岡ミュージアムウィーク2024  
5月18日(土)～26日(日)

福岡市では、博物館・美術館の役割を広く周知するために制定された「国際博物館の日」(5月18日)にあわせて、「福岡ミュージアムウィーク」を開催します。当館では、期間中、コレクション展観覧料無料になります。ぜひこの機会に市内の様々なミュージアムにおでかけしてみたいかたがでしょうか。

LECTURE

つきなみ講座

APRIL-JUNE 2024

毎月1回、当館学芸員が、自分の仕事、展示、研究、関心ごとについて語ります。

※聴講無料、申し込み不要 ※先着順(30分前開場) ※定員等に変更になることがあります。詳細は美術館ホームページをご確認ください。



4月 アメリカ美術とウォーホルのことなど

20世紀を代表するアメリカ人美術家のアンディ・ウォーホルについて、同時代のアメリカ美術の流れや、現在の人気を踏まえて紹介していきます。

日時：4月13日(土)15:00-16:00  
会場：レクチャールーム(定員54人)  
講師：山田隆行(学芸員・近現代美術係)



コレクション展示室 近現代美術室Aの展示風景

6月 鉛を使った作品の保存  
—アンゼルム・キーファー《メランコリア》の事例

美術作品にしばしば使われている鉛は、実は保存上でよく問題となりやすい材料でもあります。今回は当館所蔵作品の事例を通して、鉛の特性と課題についてお話します。

日時：6月15日(土)15:00-16:00  
会場：ミュージアムホール(定員180人)  
講師：渡抜由季(学芸員・近現代美術係)



アンゼルム・キーファー 《メランコリア》1989年

ギャラリー A-F 2階

2024年4月2日(火)～4月7日(日)

・第29回 福岡市書道協会展 (ギャラリーA,B,C,D,F)

2024年4月9日(火)～4月14日(日)

・第90回記念 独立展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年4月16日(火)～4月21日(日)

・3人のパレット:Retrospective(ギャラリーA)  
・自由課題 たなけん展Vol.9(ギャラリーBC)  
・第1回 フォト蔵写真展(ギャラリーD)  
・第59回 遊展(ギャラリーE)  
・花咲く、風光る展(ギャラリーF)

2024年4月23日(火)～4月29日(月)

・桐生東光展 ～ありがとう九州高校～ (ギャラリーA)  
・CORE—斎藤モトイ抽象写真展—(ギャラリーB)  
・金継ぎ工芸会作品展2024(ギャラリーC)  
・末石清昌ワールド「牧場物語」(ギャラリーD)  
・70・77出発展(ギャラリーE)  
・第6回 博多を描く会展(ギャラリーF)

2024年5月1日(水)～5月6日(月)

・写真家 蒲池弘吉 写真展"Feeling Journey" (ギャラリーA)

・遊美塾福岡 写真展(ギャラリーB,C,D)  
・牧瀬英喜「沖縄撮影紀行」沖縄を想い訪ね＝島の今を視つめる＝ (ギャラリーE)

2024年5月8日(水)～5月12日(日)

・第20回 整の会展(ギャラリーA)  
・風景画に魅せられて(ギャラリーE)  
・アルシュ展(ギャラリーF)

2024年5月14日(火)～5月19日(日)

・グループ季楽 水彩画展(ギャラリーA)  
・入賞作・入選作展 千田正一郎(ギャラリーB)  
・大濠・舞鶴公園とその周辺の花・鳥・風景写真展(ギャラリーC)  
・手描き染め教室 講師生徒作品展(ギャラリーD)  
・YO展 2024(ギャラリーE)  
・アトリエ香書道篆刻教室 講座生作品展(ギャラリーF)

2024年5月21日(火)～5月26日(日)

・第77回 示現会展(ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年5月28日(火)～6月2日(日)

・第15回 趣味で始めた水彩画展(ギャラリーA)  
・洋画会エルサバド(ギャラリーB)

・博多漆芸研究所「漆と金継ぎ」展(ギャラリーC)  
・福岡読売写真クラブ 第15回写真展(ギャラリーD)  
・恵風会はがき絵教室 作品展(ギャラリーE)

2024年6月4日(火)～6月9日(日)

・セキサバ倶楽部写真展(ギャラリーA)  
・島展(ギャラリーB,C,D)  
・かわいい動物たちの写真(ギャラリーE)  
・江口慎一写真家園作品展「光の森vol.6」(ギャラリーF)

2024年6月11日(火)～6月16日(日)

・第119回 太平洋展 第58回 太平洋西日本展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年6月18日(火)～6月23日(日)

・第83回 創元展 福岡巡回展 (ギャラリーA,B,C,D,E,F)

2024年6月25日(火)～6月30日(日)

・「宇宙の音」Rina.K 初個展(ギャラリーA)  
・九州産業大学芸術学部写真・映像メディア学科 進藤ゼミナール写真展(ギャラリーB,C,D)  
・SEIEN 写真倶楽部作品展(ギャラリーE)  
・「一連托笑～ともに、笑おう～」あなたの笑顔が、誰かの勇気になる。(ギャラリーF)

福岡市美術館ミュージアムイベント協賛企業・団体



## ふくおか応援寄付

福岡市美術館が魅力的であり続けるためには、今後とも機会あるごとに美術品を収集することが不可欠であり、そのための資金として皆さまから「ふくおか応援寄付」(ふるさと納税による寄付)を募集しています。

## わたすclub

会員になると、展覧会や映画などの料金がオトクにもっと身近にアートのワクワクを感じてみませんか。福岡市文化芸術振興財団のホームページ (<http://www.ffac.or.jp/wa/>) またはミュージアムショップ店頭で入会受付中。

## MUSEUM SHOP

ミュージアムショップ

NEW



トートバッグ

畦地梅太郎《めぐりあい》  
2,200円(税込)

木版画家 畦地梅太郎の作品がトートバッグになりました。当館オリジナルグッズです。A4サイズの書類がちょうど収まる使い勝手のいいサイズ感のトートバッグです。

※絵柄は2種あり



福岡市美術館

FUKUOKA ART MUSEUM

福岡市美術館  
ウェブサイト

[www.fukuoka-art-museum.jp](http://www.fukuoka-art-museum.jp)



esplanade APRIL 2024 | NO.215

福岡市美術館 季刊誌エスプラナード215号 発行日:2024年4月1日

【制作】福岡アートミュージアムパートナーズ株式会社(西日本新聞社)【編集】浅野佳子(nico edit)【デザイン】dictom design【印刷】株式会社西日本新聞プロダクツ【発行】福岡市美術館(〒810-0051 福岡市中央区大濠公園 1-6 TEL:092-714-6051 FAX:092-714-6071 <https://www.fukuoka-art-museum.jp>)

〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 TEL:092-714-6051(代表) FAX:092-714-6071

【開館時間】9:30~17:30(7月~10月の金・土曜日は9:30~20:00) ※入館は閉館の30分前まで。

【休館日】月曜日、年末年始(12月28日~1月4日)※月曜日が祝日・振替休日の場合はその後の最初の平日